



あおもり 町連だより

第213号

令和元年 7月
(2019年)

青森市町会連合会

TEL 017(734)2584
FAX 017(734)2587

令和元年度
定時総会

地域力の掘り起こしを進める

地域の組織が お互いに連携 原案通り全議案承認

青森市町会連合会は5月30日(木)、午後1時からホテル青森で令和元年度定時総会を開き、町会長237人が出席、令和元年度事業計画・収支予算案など提出4議案を原案通り承認しました。

総会は佐々木重光常任理事が司会を務め、齊藤裕一郎副会長が開会を宣言。物故者に黙祷をささげた後、加川幸男会長があいさつに立ち、各町会長の日ごろのコミュニティ活動等への尽力に対して敬意を表しながら、「各町会の連絡協調と住民の福祉増進を図り、豊かで住みよいまちづくりのため、活動の推進に努めたい。このため地域の組織がお互いに連携し合い、地域力の掘り起こしを推進する」と基本方針を述べました。



町会長237人が出席して開かれた令和元年度定時総会

次いで、長年町会運営に貢献し退任された町会長25人、優良町会員163人を表彰(3面に掲載)、受賞者を代表して木村眞一氏(古館町会)が謝辞を述べました。

続いて、来賓の小野寺晃彦市長(代理・前多正博副市長)、長谷川章悦市議会議長(代理・藤田誠副議長)、岩淵猛青森警察署長(代理・境澤真人地域官)があいさつ、各町会長が地域の防犯、防災、交通安全等の活動に日々尽力されていることに感謝し、市町連の一層の発展を祈念する祝辞を述べ、同じく来賓として出席した浪岡町内会連合会の伊藤芳男会長が紹介されました。

この後、松本勝義鴨泊町会長を議長に選出し、議事に入りました。

議事はまず、議案の30年度事業報告について
(2面へ続く)

紙面紹介

- | | |
|----|---------------------------------------|
| 2面 | 令和元年度定時総会続き
令和元年度事業計画 |
| 3面 | 退任町会長、優良町会員を表彰
30年度交通安全施設整備要望の診断結果 |
| 4面 | 30年度市政懇談会 |
| 5面 | 30年度市政懇談会(4面からの続き) |
| 6面 | 東部第三区連合町会研修会 |

各部長が報告、30年度一般会計収支決算などについて福井正樹事務局長が説明を行ない、原案



30年度事業報告をする各部長

通り承認しました。

引き続き、令和元年度事業計画、一般会計収支予算案などについて審議を行い、各部長、福井事務局長が説明しました。

出席者から、収支予算案の支出の部で事業費に費用を計上している市町連会長杯ゴルフ大会について、開催の目的、決定までの経緯、事業を検証する予定の有無、事業は単年度のものか継続するのか—などの質問があり、福井事務局長が説明した後、原案通り承認しました。

令和元年度事業計画

各組織一丸となって

情報共有化等に検討委員会

基本方針

青森市町会連合会の目的である「各町会の連絡協調と住民の福祉増進を図り、豊かで住みよいまちづくり」のため、活動の推進に努めて参ります。

近年は、少子高齢化社会の進展と人口減少などにより、地域を支えるチカラが年々脆弱化してきており、地域力の強化は喫緊の課題となっております。

このため地域の組織がお互いに連携し合い、健康で明るく安心な暮らしができるよう地域力の掘り起こしを推進して参りたいと考えております。

重点目標

青森市町会連合会は「重点目標」の骨子を、町会連合会、地域協議会、地区連合町会、町会が組織一丸となった活動を原点とし、「ふれ合い・助け合い・支え合い」の地域みんなのチカラで、地域住民みんなが明るく笑顔で過ごせる町会づくりを推進することとします。

- (1) みんなで考え、みんなで参加し、みんなの力でまちづくりを進める
- (2) 地域への誇りと愛着心を持ち、明るく笑顔で暮らせるまちづくりを進める
- (3) お年寄りなどが安心して暮らせるまちづくりを進める
- (4) 安全で快適な暮らしができるまちづくりを進める

- (5) 健康づくりの盛んなまちづくりを進める
- (6) 青少年が健やかに育つまちづくりを進める
- (7) 文化の香りがするまちづくりを進める

推進事業

- ・青森市町会連合会会長杯ゴルフ大会の開催
- ・広報「町連だより」の発行（町連だより編集委員会）

総務部会

- ・各部会の職務分掌を検討する委員会の設置
- ・情報共有化のための検討委員会の設置
- ・町会連合会の足跡事業・記念誌発行委員会発足（周年記念誌発行）
- ・青函ツインシティ交流研修会の開催
- ・総会・役員会・市政懇談会、新任町会長研修会等の研修会開催

地域振興部会

- ・雪処理事業の充実化の推進
- ・災害に強い地域づくり事業の推進
- ・自主防災組織の結成の促進
- ・道路の舗装及び補修と側溝整備の促進

交通・防犯部会

- ・高齢者と子供を守る運動の推進
- ・交通安全関係者会議への参画及び協力
- ・交通安全協会事業と連携した活動の推進
- ・防犯運動団体等との連携した活動の推進

環境部会

- ・ごみの減量化と資源再使用の促進
- ・地域花いっぱい街づくりで、環境美化運動への協力
- ・地球温暖化対策協議会への参加、協力
- ・廃棄物等の不法投棄による通報協力
- ・野生動物への餌やり等を防止し、鳥インフルエ

退任町会長25人を表彰

優良町会員163人も

青森市町会連合会は令和元年度定時総会で、表彰規定に基づき、退任した町会長25人と、優良町会員163人を表彰しました。(敬称略、カッコ内は町会名、勤続年数)

□ 20年以上勤続して退任

大塚英明(御園町、20) 加藤健一(しらかば、31) 成田雄一(中新町、27)

□ 5年以上20年未満勤続して退任

丹野辰雄(矢田前、15) 木村眞一(古館、13) 高田博恵(茶屋町東部、13) 川口重成(沢山、12) 福井奏二(県営唐橋、12) 高田誠太郎(篠田、6) 佐々木幸雄(東上古川、8) 三浦孝志(合子沢、6) 三上正八(荒川四区、12) 木村清彦(ハツ役、9) 大川久志(幸畑ひばりヶ丘、9) 浅木信や(桜川南、6) 本間英昭(金沢、8) 中村金雄(南片岡、11) 中川光平(油川仲町、12) 藤林博(油川横町、8) 山口喜兵衛(小橋、14) 福井良幸(六枚橋、11) 山田勇治(舘貝、11) 故・今川愷司(柳町、

12) 工藤健二(長島、16) 黒滝正隆(古川三丁目第一、7)

□ 優良町会員

須藤良蔵(浜田ニュータウン) ほか162人



㊤長年町会長を務めて退任、表彰された方々
㊦謝辞を述べる木村眞一氏

ンザの防止に協力

福祉部会

- ・高齢者を励ます活動
- ・地域ネットワーク活動推進事業の促進
- ・町会等が行う福祉事業の支援並びに地域づくり事業の推進
- ・災害時要援護者支援運動
- ・市民生委員・児童委員協議会との意見交換会

女性部会

- ・検診受診勧奨、広報活動
- ・交通安全運動推進・啓発
- ・町会女性役員(リーダー)研修会の開催
- ・町内女性の集いの開催

信号機1カ所設置予定

30年度交通安全施設の整備

信号機設置など交通安全施設整備について平成30年度、52町会から出されていた98件の要望(市へ直接要望書を提出した町会、件数を含む)に対する交通診断結果は次の通りでした(診断結果は

市町連から要望を出していた町会へ連絡しました)。

□ 信号機設置 (要望11件)

対応予定1件、公安委員会へ上申・上申予定3件、検討・条件付検討2件、見送り5件

□ 交通規制等 (要望28件)

対応済・一部対応6件、対応予定・代替対応予定13件、公安委員会へ上申2件、検討4件、見送り3件

□ 横断歩道 (要望4件)

見送り4件

□ 道路標識 (要望2件)

検討1件、見送り1件

□ ロードミラー (要望45件)

対応済・代替対応済5件、対応予定・代替対応予定・条件付対応予定20件、条件付検討1件、対応困難1件、対応不可5件、見送り12件、取り下げ1件

□ その他 (要望8件)

対応予定・代替対応予定7件、検討1件

—30年度市政懇談会—

変わる青森駅周辺

市町連は1月16日(水)市福祉増進センター(しあわせプラザ)で平成30年度市政懇談会を開き、青森駅周辺整備やアリーナプロジェクトなどについて市と意見交換しました。

懇談会には市町連から加川幸男会長ほか34人、市からは小野寺晃彦市長ほか理事者7人が出席、加川会長、小野寺市長のあいさつの後、市からの情報提供として、都市整備部の長井道隆理事が、昨年11月から工事が始まった青森駅自由通路・駅舎新設他工事の計画、駅周辺地区整備の概要などを説明しました。説明の概要は次の通りです。



あいさつする小野寺市長

青森駅周辺は昨年、市役所の窓口機能がアウガに移転、青森商工会議所会館がアウガに隣接するビルに移転、今年4月には青森港の新中央埠頭に建設中の大型客船ターミナルが供用開始する。また3～4年後に新町1丁目に16階建ての複合施設(商業・住宅)、中新町に13階建ての複合施設(事務所、店舗、ホテル)と18階建ての複合施設(店舗、住宅)が出来る予定である。

自由通路の供用開始は来年度末

青森駅自由通路は、鉄道により分断された東西市街地を結ぶとともに、バリアフリーに対応した自由通路を整備することで、冬季でも安心して自由に往来できる歩行空間を確保することが目的で、東口はJR駅舎とラビナの間になり、延長約170mで西口にいたる。通路の壁面は、「展示空間を設けて」「海が見えるように」「木材を使って」など市民の意見を反映したデザインにしている。昨年11月から工事が始まっており、来年度末には供用開始の予定。西口駅前広場は面積約8,300㎡で、送迎用駐車場などを整備、供用開始は2022年度



青森駅自由通路の外観イメージ

末を予定している。自由通路完成後、JR現駅舎が撤去されるが、跡地の利用や周辺のまちづくりについては県、市、商工会議所、JR東日本の4者が相互に連携・協力して取り組みを推進する。

続いて、加川会長を座長に意見交換に移り、青森駅周辺整備に関して、出席者が①駅の東口、西口はどのように変わるのか②東口のバス発着所などロータリーに変更はあるか③西口の駐車場スペースは約30台分の送迎用駐車場のみか④西口へのアクセス整備は⑤自由通路の通行に時間制限はあるか⑥通路の壁面の活用は⑦以前、駅舎に複合施設を整備する構想があったが、現在、どのように検討しているか⑧通路に風、雨、雪が入らない対策は—と質問。市長、担当理事者が①駅前庁舎に約1,000人の職員が働いており、駅周辺の人の流れが増えた。現駅舎は建て替えられるし、駅周辺再開発の計画もある。東口は青森の玄関口として、見た目も変わっていく。西口は約30台分の駐車場のほか、バスやタクシーなどの発着ターミナル等を整備する。篠田地区の融雪溝整備も計画している②機能や施設の配置等を変更する予定はないが、観光バスの乗降は西口にするなど、機能の分散を図りたい③約30台分の駐車場のほか、バスプール、タクシープール、自転車の駐輪場を整備する。そのための詳細設計を進めている④駐車場も含め、詳細設計の中で検討し、決定していく⑤基本的には24時間通行できる。自由通路は自転車の通行ができない。自転車は今までどおり、あすなろ橋を利用することになる⑥市民の意見を踏まえてデザインを検討した。壁面に市民の作品展示を確保し、市民の文化活動や市民活動の場として活用していただきたいと考えている⑦自由通路完成後、次のまちづくりを、県、市、商工

会議所、JR東日本とで情報共有、意見交換しながら、話し合っていきたい⑧通路両側は壁、ガラス張りになるので、雨、雪は入らない。南側はガラス面になり、山を眺望できる。北側はリング箱をイメージさせる壁にするが、ここにもガラス面があり、海を望むことができる―と答えました。

操車場跡地にアリーナを整備

その他市政についての意見交換では、出席者から①青森操車場跡地に体育施設（アリーナ）を整備する計画（アリーナプロジェクト）について概



アリーナを整備する計画について質問する出席者

要を知りたい②健康寿命延伸の取り組みについて、現在の状況、今後の方針は③しごと創りに向けて、人づくり、企業誘致の取り組みは④病院事業について、経営状態が芳しくない市民病院の現状、今後の方向性は、市民病院の建て替え、または中枢中核都市として東郡5市町村の中核病院建設は―と質問があり、市長、担当理事者が①アリーナは現在合浦にある市民体育館が老朽化していることから、これに替わるものと考えており、観客席3,500、コンサートなどのイベントで使用する場合は5,000人収容できる規模を計画、付属して、サブアリーナ、子供向けの遊び場・キッズルーム（面積700平方メートルでキッズルームとしては県内最大級）も設ける。2020年度に着工し、2024年度の完成を目指している。線路北側には、新駅、南北を結ぶ自由通路、駅前広場、多目的広場等整備を計画している②「未病」をターゲットにしており、今年度、専門家と、生活習慣病の予防戦略検討会をつくった。「肥満・糖尿病対策」「がん予防対策」「たばこ対策」について検討しており、分かりやすい生活習慣病予防ガイドを作成する。肥満・糖尿病予防対策としては、健康リスクが実感できるように検診結果を色・図を使って「見える化」した検診結果構造図を用いて保健指導している。がん予防について、がん診療

全体に関わる業務を効果的・効率的に実施するため市民病院内に「がん診療支援室」を開設した。胃がん、肺がん、大腸がんは40代から増えるが、この年代の受診率が低いことから、イベントやショッピングセンターとタイアップするなど、さまざまな手段で検診受診を呼びかけた。その結果受診率が向上、早期治療に結びついている。介護予防では、地域での介護予防活動支援に、予防体操の指導者を派遣、地域の健康づくりのリーダーも12地域で162人が活動している。たばこ対策では、建設業、運輸業など喫煙率が高い職場へ保健師が出向いて、禁煙指導・相談を行っている。子供のころからの食習慣づくりも重要と考え、保育園、こども園、幼稚園へ出向き、年長児とその保護者を対象に「子ども食育レッスン1・2・3」事業を進めている。5年間に市内113園すべてで実施を予定している。

新ビジネスへの挑戦に助成金

③青森市に住んでもらうためには仕事が必要。青森には大学があり、若い人がある。2月に市内の大学生を対象に、学生ビジネスアイデアコンテストを開く。また地域企業新ビジネス挑戦支援助成金制度を設け、地元の小企業が別の分野の事業を行おうとする場合や、創業して新たに事業を始める場合の立ち上がりの経費を助成している。商工会議所内にあおもり「スタートアップセンター」が昨年オープン、相談件数が大幅に増え、地元野菜を提供するカフェレストラン、夜遅くまで車整備ができる工場など新しい事業が生まれた例がある。また同センターを会場に、各界の専門家から話しを聴く「あおもりスタートアップ支援セミナー」を毎月開催している④市は市民病院の経営改善を優先しており、病院建て替えについては現在検討していない。経営改善の取り組みとして、有識者会議の意見を踏まえ、コスト節減、病床数の削減を実施したほか、診療報酬改訂に伴う診療単価の増加があり、この結果入院収益は改善しつつある。しかし外来収益は、医師が減ったことから外来患者数が減り、収入が減った。昨年12月、市は国から中枢中核都市として選定されたが、これまで中断していた東青5市町村連携の協議を再開する。さらに、陸奥湾沿岸8市町村の連携も図っていくことにしている―と答えました。

薬の服用方法など学ぶ

東部第三区連合町会が研修会

造道地区の10町会で組織する東部第三区連合町会（鶴賀晃会長）は3月28日（木）、造道福祉館で薬の服用方法など身近な問題をテーマに研修会を開き、町会長はじめ40人が参加しました。



東部第三区連合町会

あいさつする東部第三区連合町会の鶴賀会長

研修テーマ、講師は①「薬とフレイル（老化にともなう筋力や活動低下）の関係について」、青森調剤薬局取締役薬剤師・坂井義人氏②「在宅医療看護介護の実際」、青森介護サービス代表取締役・榎引由希子氏③「短命県返上の取り組み、糖尿病の食事のポイント、ノロウイルスの予防」、東部第三区連合町会長、管理栄養士・鶴賀晃氏、④「防災について」、青森市危機管理課・伊藤陽一郎氏⑤「AED（自動対外式除細動器）の取り扱い方」、日本赤十字社青森県支部事業係長、田澤達也氏。

□薬とフレイルの関係について

薬の服用方法には食前、食直前、食直後、食間がある。食間とは、食事と食事の間のこと、食後約2時間が目安。薬の保管は、高温多湿を避け、太陽の光が当たらない、室温の涼しいところ（約25度が目安）で保管する。自分の薬は、たとえ症状が似ていても、他人に上げないこと。

フレイルになる原因は、動くことが少なくなる、社会的に交流する機会が減る、慢性疾患、低栄養などいろいろあるが、適切なケアによって健全な状態に戻ることが可能。フレイルを防ぐため①適度な運動を習慣にする②バランスのよい食事を心がける③外出や人と接する機会を増やすことが大事。また、滑舌が悪くなる、ちょっとむせる、食べこぼす、噛めない食品が増えるなど、口の衰え（オーラルフレイル）は早めに気づいて、対応することが大事。オーラルフレイル防止に、「パ」「タ」「カ」の音を発声する（パンダのタカ

ラモノを繰り返し発声する）、音読、カラオケが効果ある。

□在宅医療看護介護の実際

青森市内には訪問看護ステーションが20カ所、訪問歯科が25カ所、訪問診療が35カ所ある。訪問看護を利用し生活が改善した事例（妻と二人で暮らす77歳の男性が、甲状腺炎、血管炎症で入院、手術後、歩行できなくなり、車椅子生活になったが、半年の訪問看護で、杖をついて買い物にいけるようになった例など）を3例紹介。

□防災について

避難情報には、避難準備・高齢者等避難開始、避難勧告、避難指示（緊急）の種類があるが、避難勧告が出たら避難を開始してほしい。青森市の自主防災組織の組織率は46.4%。防災組織は住民が「自分たちの地域は自分たちで守る」ためのもの。出来る範囲内で出来ることからはじめよう。



モデル人形を使いAEDの扱い方を学習する参加者

哀 悼 録

露草町会長 伊勢 紀久 殿
（平成31年4月18日ご逝去）
南片岡町会長 盛 定春 殿
（令和元年6月20日ご逝去）
慎んで哀悼の意を表します。

● 編 集 後 記 ●

家庭ごみの排出量は、年々減少してきたものの、最近はそのが頭打ちになっているということです。資源ごみのリサイクル率も、本県は15%ほどで、あまり進んでいません。家庭ごみの減少、リサイクル率の向上には古紙の回収が鍵といわれます。特に最近、古紙不足で、古紙を原料とするティッシュ、トイレットペーパーの価格も上昇しています。私自身、古紙を燃えるごみに入れがちですが、せいぜい分別してリサイクルに回すように心掛けたいと思います。市町連も今年度、資源ごみの集団回収を一層進めることにしています。（千）